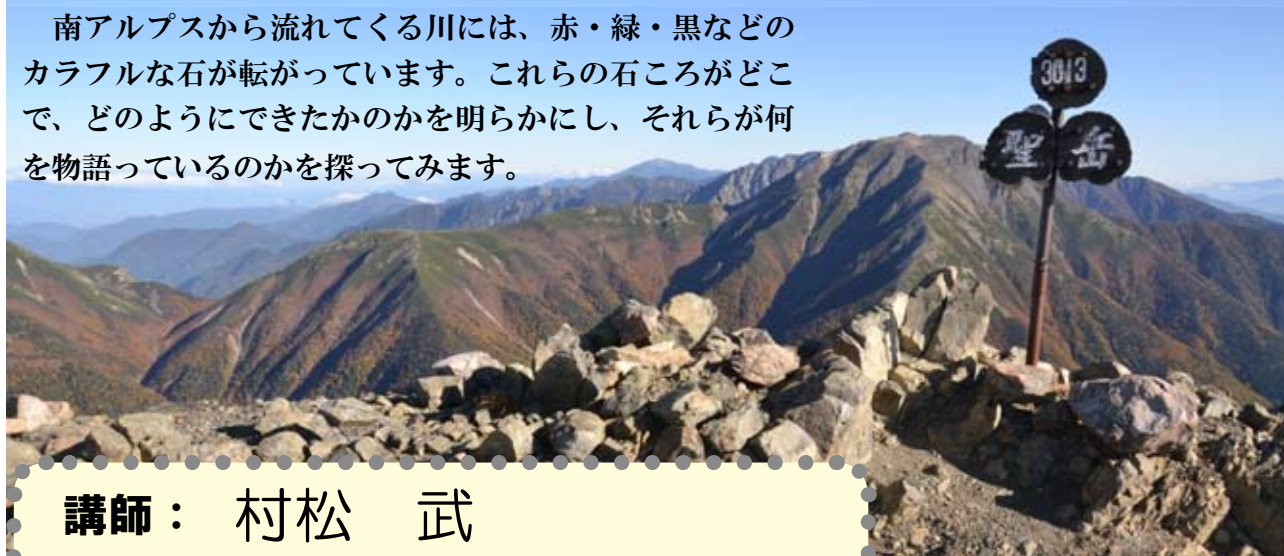


# 南アルプスの岩石のでき方

南アルプスから流れてくる川には、赤・緑・黒などのカラフルな石が転がっています。これらの石ころがどこで、どのようにできたかのかを明らかにし、それらが何を物語っているのかを探ってみます。



▲聖岳山頂の砂岩・泥岩

**講師：** 村松 武

(飯田市美術博物館専門研究員)

**日時：** 5月25日(土)

午後1時30分～3時

**場所：** 飯田市美術博物館 講堂

※聴講無料、申込不要



▲縞模様のチャート



【講師紹介】 村松 武 (むらまつ・たけし)

1959年名古屋市生まれ。山岳小説の影響で中学の頃から山にあこがれ、高校時代は鈴鹿や美濃の山々を歩いて地形図に赤線をつけることが最大の喜びだった。1977年、静岡大学地球科学科に入学。地質調査の手ほどきを受け、地形図の赤線は地質ごとのカラフルな色へと変化していった。1983年、名古屋大学大学院前期課程へ進学。南アルプス南部の地質をテーマに研究し、野外から採集した泥岩・チャートを溶かし、小さな放散虫化石を探して地層の時代を明らかにする作業に明け暮れた。自然系学芸員を志望し半田市空の科学館職員を経て、1988年からは飯田市美術博物館学芸員。以後30年間、伊那谷自然友の会の活動を担いつつ、博物館活動に取り組んだ。今年3月末で定年退職。現在60歳。



▲石灰岩からなる光岩



▲枕の形をした緑色岩